

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 196 号	氏名	池田 真帆
学位審査委員	主査 松山 俊文 副査 江口 勝美 副査 永安 武		
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価 HMG-CoA 還元酵素阻害剤であるスタチン系薬剤はコレステロール減少作用に加えて抗炎症作用があることが最近報告されるようになった。本研究ではスタチン系薬剤の炎症性腸疾患に対する効果を探る目的で腸炎モデルマウスを用いて検討したものであり目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2. 研究手法に関する評価 クローン病は Th1 優位、潰瘍性大腸炎は Th2 優位の炎症が起こっているとの説が提唱されている。ここでは TNBS、オキサゾロンを用いてそれぞれ Th1 優位、Th2 優位の腸炎モデルを作成した。スタチン系薬剤としてシンバスタチンを選び、腸炎発症前から投与する予防投与群、腸炎発症後に投与する治療投与群に分けてその効果を、体重減少、病理学的変化、サイトカインプロファイルから検討した。これらの研究手法は目的に沿った妥当なものである。</p>			
<p>3. 解析・考察の評価 本研究から、シンバスタチンを予防的に用いることで、クローン病のモデルとして用いた TNBS 誘発腸炎に効果があることが明らかとなった。一方、オキサゾロン誘発腸炎には効果がなく、シンバスタチンが Th1 優位な炎症において効果を発揮する可能性が考えられた。 これらの研究成果は現在難治性とされている炎症性腸疾患に新たな知見を与えたものであり今後の発展が大いに期待できる。審査員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			